様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年　5 月　26 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007　～　2009
課題番号：19510259
研究課題名（和文）
　トルコにおける都市構造と市場空間の活用に関する研究
研究課題名（英文）
　A Study on Urban Configuration and Utilization of Commercial Areas in Turkey
研究代表者
　鶴田　佳子（TSURUTA YOSHIKO）
　昭和女子大学・人間社会学部・准教授
　研究者番号：10241043

研究成果の概要（和文）：
　トルコ、西部アナトリア地域のうち、18 都市において都市及び市場空間に関する現地調査を実施し、常設の商業エリアと仮設の露天市を対象に、立地、空間形態、機能、活用状況、周辺施設との関連性について記録、図面化した。図面及び収集資料の情報を整理、分析し、形態的特徴を把握した。データベースを作成し、Web 上では日本語及びトルコ語で情報公開を行っている。本研究を通し、現地協力者と連携体制を築くことができ、今後、発展させていく基盤づくりとなった。

研究成果の概要（英文）：
　The purpose of this study is to investigate the spatial characteristics of Turkish cities. On the basis of spatial examination of commercial areas in 18 cities of Western Anatolia region, we drew the drafts of the central commercial areas (Çarşı in Turkish) and the market places (Pazar in Turkish) of 18 cities. From the drafts and collected materials, we created the database of the cities and commercial areas, and released the public information on the Website in Japanese and Turkish. We were able to build the basis of further developing our study through cooperation with local collaborators.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2008 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総　計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：複合新領域
科研費の分科・細目：地域研究・地域研究
キーワード：①都市形態　②空間構成　③市場　④トルコ　⑤現地調査

１．研究開始当初の背景

　トルコ諸都市における都市のセンター領域には商業空間が広がっている。商業空間の構成及び歴史的な商業施設について、文献及び現地調査を通して 1993 年から研究を進めており、同時に比較対象として、イスラーム地域ではモロッコとシリアの都市においてスークと呼ばれる商業空間を、ヨーロッパ諸都市においては市場広場を選定し、現地調査を実施してきた。これらの商業空間を対象に

空間形態及びその構成要素との関連性を分析し、都市における商業空間の配列に関する研究としてまとめた。この中で空間の形態的特徴からヨーロッパ及びトルコを含むイスラーム地域 670 事例の類型化を行い、大きく３地域(アルプス以北のヨーロッパ、アルプス以南のヨーロッパ、地中海周辺のイスラーム地域)の特色を打ち出した。気候、風土、宗教といった背景の影響が商業空間にも特徴として現れたことで地域性の視点の重要性を確認した。

商業活動の場として、都市のセンター領域の商業空間だけでなく、住宅街の街路などで定期的に開催される露天市も重要な空間であることが調査を通して確認された。本研究では、都市のセンター領域の商業空間と仮設の露天市の双方を研究対象とし、併せて市場空間として捉え、調査、分析する。

本研究に関する国内の研究動向をみると、トルコについては歴史、政治、宗教、経済、社会学等の分野では数多くの研究がなされているが、建築及び都市に関する研究になると限られてくる。トルコを含む海外における動向としては、トルコに関する建築、都市を対象とした既往研究において、歴史的建造物に関する研究、イスタンブルをはじめ、対象を一都市に限った研究、都市構造そのものの研究、歴史的地区の保存に関する研究等が見受けられる。しかし、市場空間という面的な広がりをもった対象物を一つの空間として総括的に扱ったもの、及び現在の空間形態を調査し、分析するものはみられない。

以上、このような研究成果および研究動向を踏まえ、本研究の着想に至った。

２．研究の目的

トルコ都市に関する多様な調査データ及び文献資料の整理、図面化に基づき、トルコ都市・市場空間データベースを作成する。

データベース化にあたり、様々な規模及びトルコ国内の複数の地域から事例を選択することで、市場空間、都市構造の形態的特徴を把握する。市場空間は多くの人が利用する重要な都市空間である。しかし、都市によって規模や形態が異なり、空間としての領域も曖昧であるため、本研究では市場空間の定義づけを行う。都市構造の特徴をみる上でも、この市場空間の定義づけや特質の明確化は核的な役割を担う。

これらの分析・検証作業を通して空間形態にみる地域性を明らかにし、今後のまちづくり、活性化に役立つデータづくりを目的とする。

３．研究の方法

まず、現在までに調査・収集してきたトルコ諸都市に関するデータおよび文献資料の整理を行い、調査計画を立てる。また、同時にデータベースの枠づくりを行う。その上に本研究で実施した調査データを対応させ、都市及び市場空間の表現方法を検討し、トルコ都市・市場空間データベースを構築する。

３年間で夏期と春期、可能な限り現地調査を実施し、同じ空間における季節ごとの変化も含め、現状把握に努める。現地調査では、市場空間の空間形態、機能、立地、周辺施設との関連性などを記録、関連資料の収集及びヒアリングを実施する。資料収集及びヒアリングは調査対象地での関係者（小売商、露天商、住民）、行政機関、大学等の研究機関の協力を得る。

研究体制として、全体の企画及び最終的な総括は代表者と研究分担者で進めていく。現地調査及び入手資料の整理、データ化については分担する。現地調査では、現地での研究協力者と連携することが本研究の目的達成には不可欠であり、研究成果を活かすためにも重要である。本研究チームから一方的に成果を公開するのではなく、現地との連携をとりながら意見交換をし、今後のデータの活用等、話し合っていく。現地での協力者として、調査対象となる各都市の行政機関（市役所や区役所）の都市整備部門では地図情報及び対象エリアの整備状況等の情報を提供してもらい、治安管理部門では定期市の状況及び管理体制についてヒアリングを行う。研究内容全般について、イスタンブル工科大学の研究者から意見をもらう。

調査結果に基づいて、都市構造及び市場空間の特徴について、都市規模、空間と施設の配列、歴史建造物の活用状況等から分析、考察を行う。研究成果として整理、分析した情報を研究者のみならず、幅広く一般に提供するためにデータベースに基づいて Web サイトを構築し、日本語とトルコ語によって公開する。トルコ語での Web 公開にあたっては、イスタンブル工科大学の研究者に校閲を依頼する。

４．研究成果

西部アナトリアの４地域(マルマラ海地方、エーゲ海地方、中央アナトリア地方、黒海地方）から 18 都市（イスタンブル、ブルサ、バルケシル、ベルガマ、イズミール、ウシャク、ティレ、キュタフヤ、アフヨンカラヒサール、タラクル、ギョイヌック、ムドゥルヌ、ボル、サフランボル、カスタモヌ、ナルハン、ベイパザル、コンヤ）を対象とし、都市・市場空間データベースを作成した。18 都市のうち、ティレ（エーゲ海地方）に関してのみ、過去（2006 年８月）の調査データに基づく。他の 17 都市に関しては本研究の対象期間中（2007 年４月～2010 年３月）に複数回、調査を実施し、記録したデータを中心に過去の

調査データとも比較しながら考察を行う。

調査を進める中で、かつての隊商ルート沿いの都市が歴史建造物の保存とともに都市及び市場空間の活性化に力を注いでいる現状が把握できたため、調査対象に選定した都市を継続して調査し、研究成果が調査地の今後の活性化に役立つ情報になるよう努めた。

調査対象の市場空間は、都市センター領域に位置する常設の市場空間チャルシュ（トルコ語 *çarşı*）と仮設の露天市パザル（トルコ語 *pazar*）の２種類の空間形態から構成される。都市によって規模や配列は異なるもののチャルシュ、パザル共に商業活動の場として欠かせない市場空間であると定義づけができる。チャルシュは一筋の商店街の場合もあれば、複数の商店街や伝統的な商業施設による複合的かつ面的な広がりをもつものもある。パザルは街路や広場にテントを張ることで市場空間を作り出すものであり、定期的に開催される。都市の規模が大きくなるほど、パザルの開催エリアは数が増える。露店以外に常設の市場施設内に陳列台が並ぶパザルもある。

調査結果から、都市毎に都市図、中心エリア図、チャルシュ図、パザル図を作図した。都市図は都市全体の構成を示すもので都市における、チャルシュとパザルのエリアを記載する。中心エリア図は都市センター領域における主要施設及び空間構成を示すもので、主要施設とその名称、チャルシュと中心部で開催されるパザルエリアを記載する。チャルシュ図は、チャルシュ全体の構成を示すもので(図１参照)、商業施設、コミュニティ関連施設、公共施設、宗教関連施設の配置を記載する。商業施設に関しては、布製品、革製品、貴金属製品を取り扱う店が多くみられる。いずれも伝統的な商品であり、大都市になると業種毎にまとまったエリアを形成する場合もあるため、着目すべき業種とし、細分化する。

パザル図は露天市の開催エリアを示すもので（図２参照）、露店の並ぶエリアを主な取扱商品とともに記載する。露店エリア以外にチャルシュエリアや主要都市施設も表記する。主な取扱商品は、食料品、衣類・雑貨であり、春期に関しては苗木が加わる。また、周辺の村の中心的な役割を担う都市の場合、村の農産物を販売するエリアがあり、図中、村エリアと記載している。全般的に露天市は週に 1，2 度開催されるものであり、調査期間及び滞在時間が限られたため、一部データが不足している都市もあるが、今後、追加調査を実施し、補完していく予定である。

これらの図面を調査地毎に作図した後、分析を行い、チャルシュ、パザルそれぞれの空間的な特質を考察する。

まず、常設の商業空間であるチャルシュに

図 1. チャルシュ図（例：ギョイヌック）

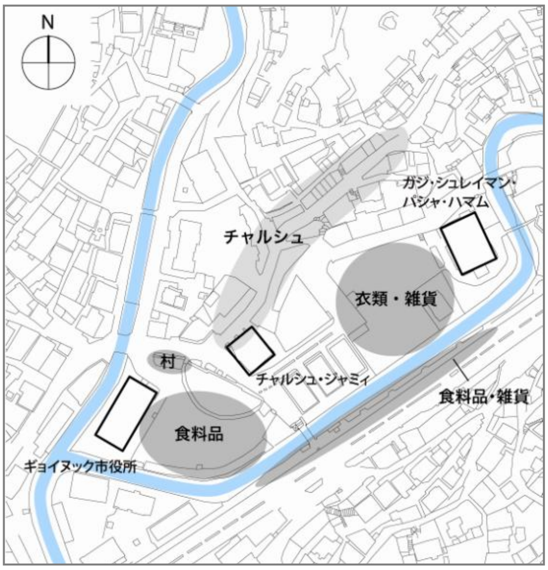

図２．パザル図（例：ギョイヌック）

は共通する特徴が三点ある。チャルシュが都市センターの役割を果たしていること、伝統的な空間形態を維持するエリアに新しいものが入り込み、新旧共存しながら発展していること、人々が定期的に集まることを誘引する場が多数存在し、交流空間としての役割を果たしていることである。また、全都市の共

通点ではないものの着目すべき特徴として、チャルシュの平面形態が格子状の形態をとっていること、伝統的な商業施設が保存、修復されながら活用されていることが挙げられる。チャルシュが都市センターとして長い歴史の中で都市を継承してきた場所であるため、都市の規模が大きくなるとベデステン（トルコ語 *bedesten*。堅固な商業施設の意味。）やハン（トルコ語 *han*。隊商宿の意味。）などの歴史建造物がチャルシュの核となり、チャルシュ自体の規模も大きくなる。

チャルシュの内部構成について業種ごとの分布をみると、規模の大きな都市の場合、業種によるエリア分けが明確であり、小規模な都市になると混在する傾向にある。業種としてはどの都市も革製品、布製品、貴金属が欠かさず入っており、特に革製品と布製品は店舗だけでなく生産の場である工房も併設あるいは独立する形で存在している。工房は伝統産業と観光化及び周辺の村との関連から必要性があり、今後の活用も期待される。

次にパザルについては、以下の特徴が挙げられる。第一に、街路空間の活用である。通常は通行機能を果たしている街路にテントや陳列台が連続して並ぶことで仮設の市場空間が形成される。ヨーロッパでは広場の活用が多いが、トルコの場合、街路、特に住宅街の街路を露天市開催日に車両規制し、市場空間化する事例が多くみられる。第二に施設化・装置化の傾向がみられることである。パザルの多くは屋外に露店を並べる形式がほとんどであるため、天候に左右され、衛生面での問題も指摘されている。その改善策として、常設の市場施設を設置する事例が各地で増えつつある。第三にサービスを主体とする露天商の存在である。パザルでは食料品から衣類、雑貨まで日用品を幅広く販売しているが、その他の業種として商店主や露天商、顧客などのパザル利用客に対して、お茶や食事を提供、宅配する露天商も存在する。第四に周辺の村の販売エリアの存在である。周辺地域の核となっている都市の場合のパザルでは村の販売エリアがあり、農産物や自家製の乳製品などが取り扱われ、多くは村の女性達によって販売されている。第五に行政によるパザル環境改善の取り組みである。近年の傾向として、より快適なパザル環境の形成に行政側が力を入れている。パザルは屋外の路上に仮設の露店が並ぶ場合が多いため、問題も抱えている。周辺住民の苦情により、開催地の移転や消滅に追い込まれたパザルもある。周辺住民や常設店舗の店主、パザル利用客である顧客への配慮として、管理側である行政機関や小売商管理組合が各地で改善策を講じている。また、新たな方向性として、エコロジカル・パザル、手工芸品市、蚤の市、観光市などといった特殊な商品を取り扱うパザルが現れている。

パザルとチャルシュの構成は、小規模な都市では中心部のチャルシュに内包あるいは隣接する形でパザルが立地し、中規模及び大規模な都市になると中心部だけでなく、地区ごとにもパザルが立地し、一都市の中に複数存在するという、都市規模の違いによる傾向がみられた。

以上のようにチャルシュ、パザル双方とも現在も活用されている市場空間であることが確認でき、それぞれの空間的特質から都市規模による差や西アナトリア地域に共通する特徴を抽出することができた。

研究成果を公開するために Web サイト「トルコ都市・市場紹介サイト」を立ち上げた。都市別のページを基本構造として、調査で記録してきた現状写真及び作図した図面を盛り込み、視覚的にわかりやすく、かつ、その都市への訪問意欲をかきたて、訪問する際に実用的となるデータ提供を心掛け、整備した。トップページからはトルコ全土の地図に紹介都市の位置を示し、各都市紹介ページへのリンクを作成する。その他、地域別にリスト化した都市名からのリンクやイメージ写真からのリンクにより、都市紹介ページへ導入する。また、トルコ語ページに関しては翻訳者へ依頼し、建築の専門家の校閲を経て、公開している。

今後も本研究で構築することができた人的ネットワークや Web サイトを基盤にデータのさらなる充実を図り、現地各種機関と提携しながら研究を継続していく予定である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

①鶴田佳子、高木亜紀子、トルコにおける市場空間の構成と活用に関する研究　その２、昭和女子大学学苑・人間社会学部紀要、査読有、No.832、2010、pp.46-65

②鶴田佳子、高木亜紀子、トルコにおける市場空間の構成と活用に関する考察、昭和女子大学学苑・人間社会学部紀要、査読有、No.820、2009、pp.30-50

③鶴田佳子、高木亜紀子、トルコにおける市場空間の特性に関する基礎的考察、昭和女子大学学苑、査読有、No.814、2008、pp.53-74

〔学会発表〕（計１件）

①鶴田佳子、イスタンブルにおける露天市の現状について－市場空間の形態に関する研究その 2－、日本建築学会大会（九州）学術講演会、2007 年 8 月 29 日、福岡大学七隈キャンパス

〔図書〕（計２件）
①Yoshiko Tsuruta 他, Garanti Galeri, Becoming İstanbul an Encyclopedia, 2008, pp.297-300
②Yoshiko Tsuruta 他, Garanti Galeri, İstanbullaşmak: Olgular Sorunsallar Metaforlar, 2009, pp.244-247

〔その他〕ホームページ公開
サイト名：トルコ都市・市場紹介サイト
URL: http://www.turkish-city.jp/
トルコ語名 : Türkiye'de Kentler, Çarşılar ve Pazarlar
英語名：City and Bazaar Information in Turkey

６．研究組織
(1)研究代表者
鶴田　佳子（TSURUTA YOSHIKO）
昭和女子大学・人間社会学部・准教授
研究者番号：10241043

(2)研究分担者
高木　亜紀子（TAKAGI AKIKO）
昭和女子大学・生活科学部・助手
研究者番号：70398709

(3)連携研究者
なし